



キャンプ座間への弾薬輸送問題について

中澤 邦雄 議員 《日本共産党》

キャンプ座間への弾薬輸送は、東広島市の川上弾薬庫から民間業者のトラックで搬出し、広島貨物ターミナル駅で鉄道輸送に積み替えて横浜羽沢駅まで輸送し、そこから民間業者のトラックでキャンプ座間に搬入されています。弾薬輸送の実績は昨年、一昨年ともコンテナ12個で約60トンです。川上弾薬庫がある東広島市には昨年度4300万円の交付金があり、また、弾薬輸送の日時や経路などの情報が防衛当局から提供されています。しかし、本市には一切情報が知らされておらず、キャンプ座間にどのように搬入され、どこでどのように保管されているのかは明らかにされていません。市民の不安を解消し、安全安心の町づくりを進めていくためにも、政府や米軍に対して弾薬輸送の情報提供を求めるべきと考えますが、市長の見解を伺います。

市長 キャンプ座間に川上弾薬庫のような弾薬の備蓄、貯蔵等があれば一定の交付金が受けられるのではということについては提案として受けとめ、弾薬輸送の情報提供については、川上弾薬庫とは状況が違ふと考えますが、情報の提供、取り扱いについて何らかのアクションがとれるのであればとるようにしていきたいと思っています。



芹沢地区の交通安全対策を問う!

荻原 健司 議員 《自民党・いさま》

市道38号線周辺では、芹沢公園が開園し、カレスト座間跡地に大型商業施設が来春開業予定ですが、交通量増加による芹沢地区の生活環境への対応や歩行者の安全対策を加速させる必要があると考えますが、所見を伺います。

また、東原幼稚園前の市道東原16号線は、大型車や特殊車両などの通行により歩行者が危険にさらされていますが、安全対策についての所見を伺います。

都市部長 大型商業施設の利用者による車両の増加対策として、通行車両の分散化による渋滞緩和を目指し、市道38号線の改良工事を行っています。



グローバル社会、子供達のために英語教育を真剣に!

吉田 義人 議員 《自民党・いさま》

文部科学省では、公立中学校の英語教員に求められる英語力の水準を英検準1級程度以上と設定し、英語教員の50%がその水準に達することを目標としています。平成28年12月の文部科学省の全国調査では、公立中学校の英語教員の73.8%が英語能力に関する外部試験を受験しており、規定水準に達している割合は32%です。本市の英語教員について、外部試験の受験状況と英検準1級程度以上の取得状況を伺います。

また、平成32年度からの次期学習指導要領では、小学校5、6年生で英語が正式教科となり、3、4年生では外国語活動が始まります。中学生の英語力向上は、小学校教育の段階から大きな影響を受ける時代に入ります。小中連携や小中英語一貫教育、キャンプ座間との英語交流協定等についての見解を伺います。

教育長 本市の英語教員の外部試験受験者は、12名で全体の46%、また英検準1級以上の英語力を有する教員は7名で、全体の27%です。小中連携に関しては、本市の英語教育推進会議においてもその重要性について協議をしています。キャンプ座間との交流については、学校からの希望があれば応援したいと考えています。



相模川洪水浸水想定区域公表される

伊田 雅彦 議員 《自民党・いさま》

相模川の中流域で最大級の洪水が起きた場合の洪水浸水想定区域図が、改めて管理主体である神奈川県から公表されました。

想定ではありますが、市内では、座間市座間、新田宿、四ツ谷の市西部地域のうちの相模川と鳩川の間のエリア一帯が0.5mから3mの浸水区域に入り、また、これまでの公表では浸水しないとされていた新田宿公民館が水深1.5m、座間1丁目に隣接するJR相模線相武台下駅が水深0.6mの浸水を受け、水が引くまでには半日から1日かかる予測されるということです。

今回公表された洪水浸水想定区域図について、今後どのような対応策をとられていくのか伺います。

市長室長 今後の対応策として住民等には、台風シーズンを迎える9月の前に、広報ざま、市ホームページにおいて周知を図る準備をしています。また、洪水ハザードマップについては、神奈川県が平成30年度末、目久尻川、鳩川の洪水浸水想定区域の見直しを予定していることから、地域の洪水ハザードマップの見直し、作成については平成31年度を予定しています。なお、配布は全戸配布を計画しています。



発達障がい等の児童・生徒のためのデジタル教科書の導入について

安田 早苗 議員 《公明党》

教科書バリアフリー法(通称)の施行に伴い、国は通常の教科書では文字や図形等の認識が困難な児童・生徒がパソコンやタブレットを活用して学習する音声教材の普及を推進しています。音声教材の一つであるディジー教科書は音声や読む速さに合わせて文字の大きさなどの調節ができます。アンケート調査では、読み間違い、読むことや漢字への抵抗感などが減少し、また、自信が付き学習意欲が出た事例も報告されています。文字が見えるのに読めない、読みたくても読めない子供たちが、他の子供たちと同じように教科書が読めるようになるためには、ディジー教科書はなくてはならないものと考えますが、周知されていないのが現状です。発達障がいがある児童・生徒の学習支援ツールとしての情報提供、積極的な活用推進についての見解を伺います。

教育長 音声教材は、発達障がい等により読みが困難な児童・生徒にとって内容に対する理解が深まるなどの一定の効果があると認識しています。教職員に対し周知をしてみました。今後も多くの教職員や保護者に基本的な機能や効果を十分に理解していただけるよう周知していきます。



7歳児の歩行中の交通事故対策について問う

沖本 浩一 議員 《さま大志会》

警察庁が3月23日に発表したまとめによると、平成24年から平成28年までの5年間に全国で歩行中の交通事故による死傷者の年齢は7歳が最も多くなっています。神奈川県と本市の状況を調査したところ、県の年齢別歩行中の交通事故による7歳児の死傷者数は平成24年から平成28年までの5年間で767人、全年齢の平均に対して2.8倍となっています。本市の7歳児の死傷者数は5年間で13人、全年齢の平均に対して4.7倍と全国傾向と同様であり、事故原因は飛び出しが最も多くなっています。事故対策にはこうした情報を共有し取り組むことが必要と考えますが、本市における事故傾向を踏まえた対策について伺います。

教育長 7歳児の交通事故が突出して多く、原因の多くは飛び出し事故です。下校時間帯や夕方時間帯に危険性が高まることから、車両の直前直後の横断及び横断歩道外横断の危険性及び横断の仕方といった情報を改めて教職員に周知を図ります。さらにその情報を保護者、交通安全指導員、登下校を見守っていただいている地域の方々、子供の交通安全にかかわる方々に全体的な情報の共有を図るとともに、庁内でも情報共有に努めていきます。

請願・陳情の結果

6月定例会の各委員会で審査した請願・陳情は、次のとおり決まりました。

◎ 採 択

請願第1号 義務教育に係る国による財源確保と、35人以下学級の着実な実施・進捗を図り、教育の機会均等と水準の維持・向上並びに行き届いた教育の保障に関する請願

陳情第3号 安全・安心の医療・介護の実現と夜勤交代制労働の改善について国への意見書提出を求める陳情

陳情第12号 入谷小学校北門(通用門)及び正門歩道横断勾配改善についての陳情

陳情第13号 神奈川県最低賃金改定等についての陳情

◎ 不採 択

陳情第2号 介護従事者の勤務環境改善及び処遇改善の実現について国への意見書提出を求める陳情

請願・陳情の提出について

請願・陳情はいつでも受け付けています。提出された請願・陳情は3月、6月、9月、12月の年4回開催される定例会において審査されます。

なお、定例会ごとの締め切り日については、議会事務局にお問い合わせください。

☎046(252)8872